

未知語分散表現を用いた品詞解析

三林亮太⁺
⁺ 甲南大学

五十川真生⁺
⁺ 大阪大学大学院情報科学研究科

永田亮⁺
⁺ 大阪大学データビリティフロンティア機構

荒瀬由紀⁺
⁺ 大阪大学データビリティフロンティア機構

梶原智之[§]
[§] 大阪大学データビリティフロンティア機構

リサーチクエスチョン

連絡先 三林亮太 : s1671117@s.konan-u.ac.jp

Q. 未知語をより考慮した分散表現を用いれば
品詞解析の性能はどのくらい向上するのか?

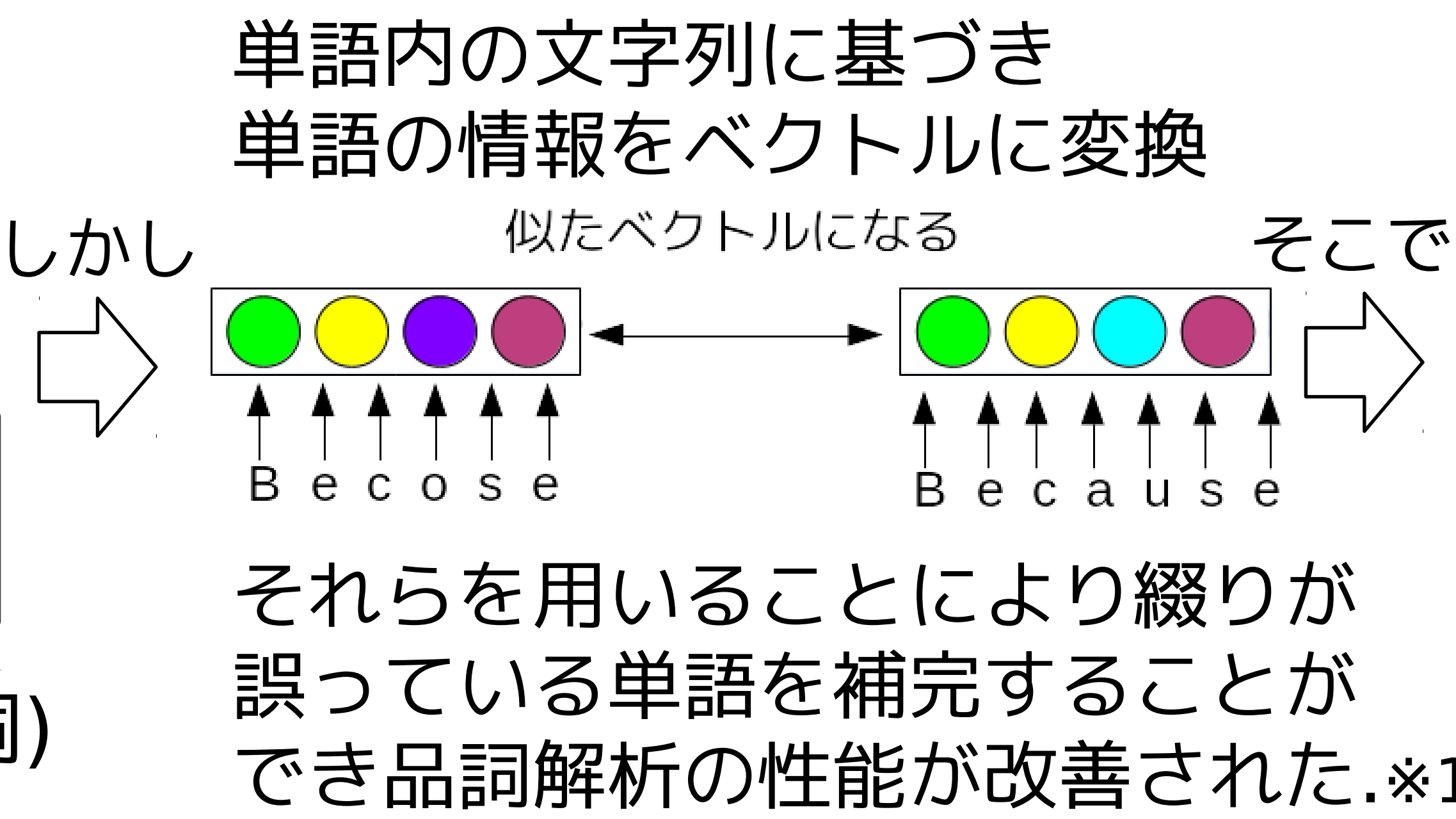


背景

品詞解析には綴り誤りにより
解析ミスを引き起こすという
問題がある.



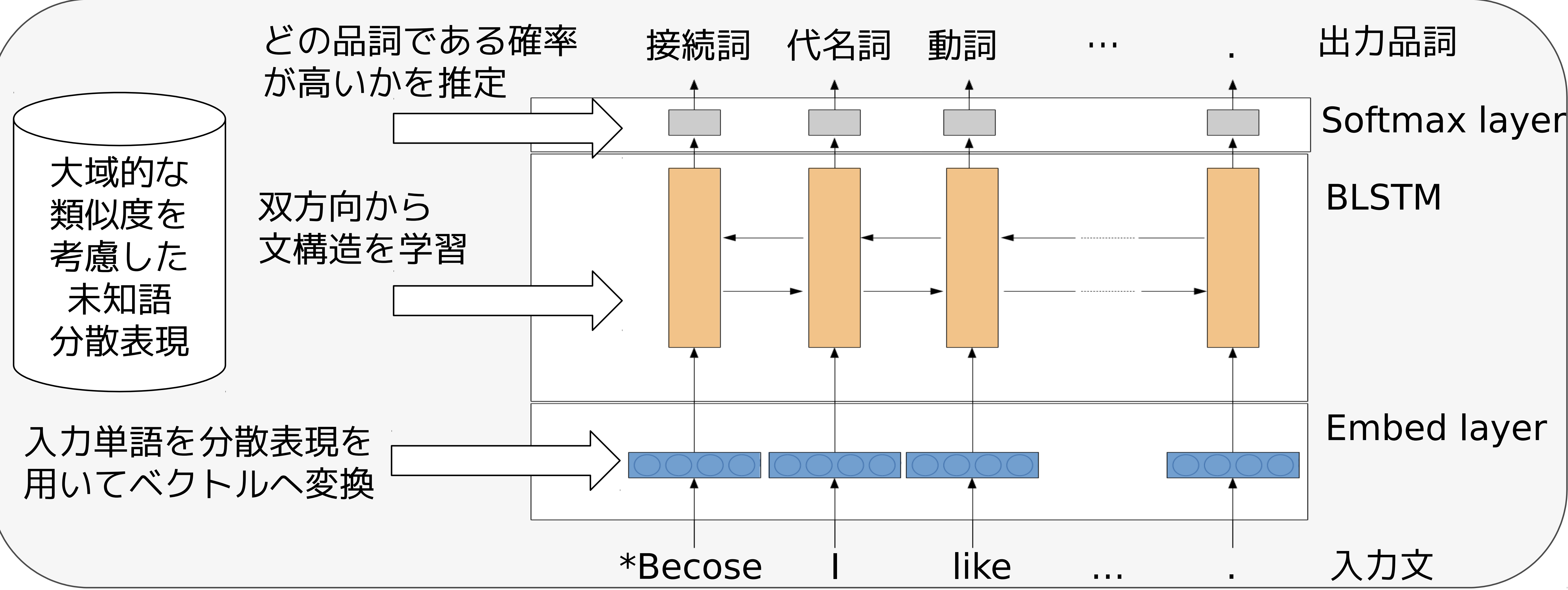
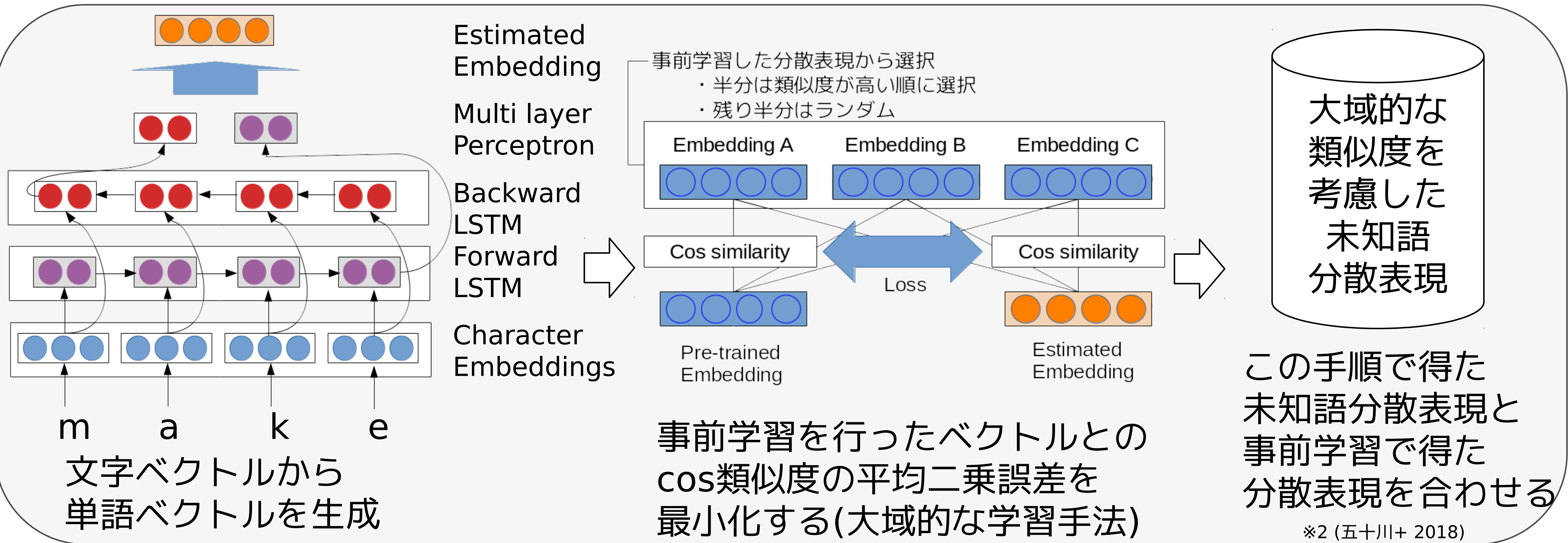
*Becose
これは固有名詞だ.
(正:Because 接続詞)



*1(永田亮+ 2018)

提案手法

大域的な類似度を考慮した未知語分散表現*2を用いて品詞解析を行う.



今後の予定

提案手法に基づき学習を行い、品詞解析結果を考察する。
未知語分散表現をCNNを用いて生成したものに変更するなど他の検証を行う。